

経営比較分析表

神奈川県 山北町

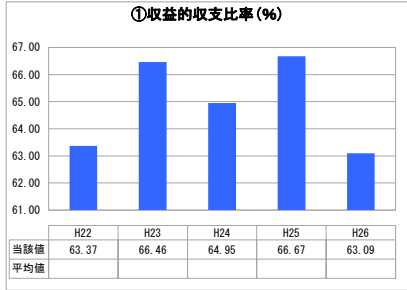
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	80.78	78.84
1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)			
1,188			

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,405	224.61	50.78
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,140	3.12	2,929.49

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

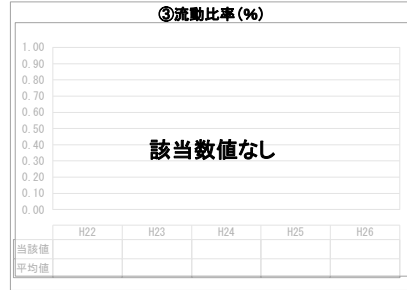
1. 経営の健全性・効率性



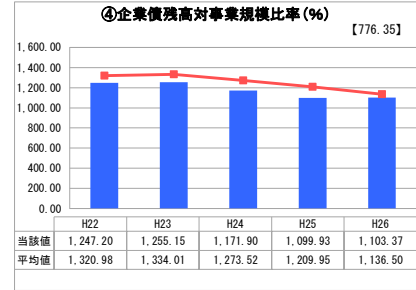
「単年度の収支」



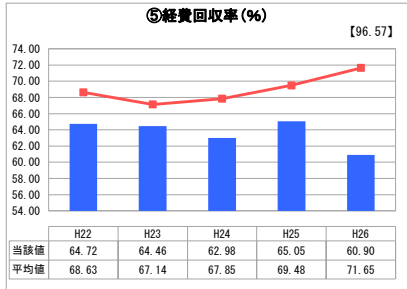
「累積欠損」



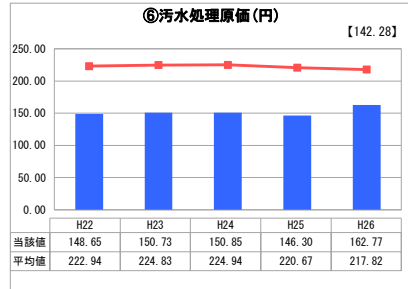
「支払能力」



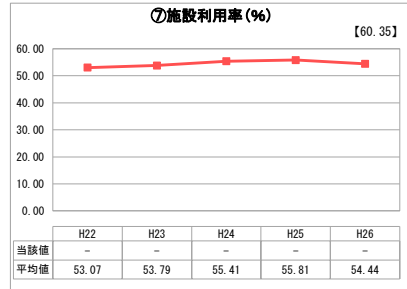
「債務残高」



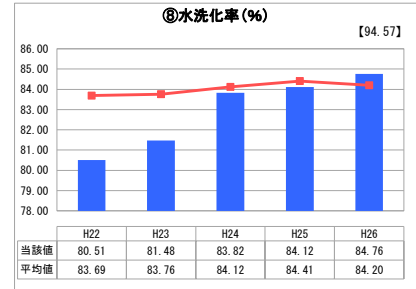
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

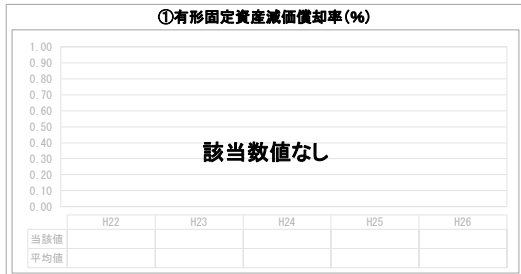


「施設の効率性」

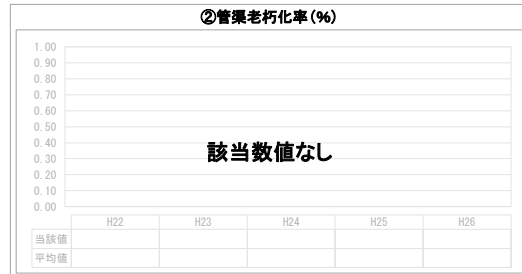


「使用料対象の捕捉」

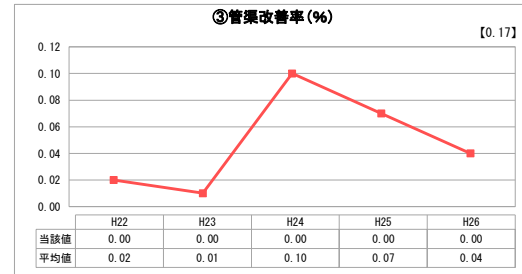
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

使用料収入と収益的収支の一般会計繰入金だけでは、収益的収支比率が100%に達していないため、資本的収支の一般会計繰入金等で賄っています。また、経費回収率についても約60%と、汚水処理に係る経費を使用料だけでは賄うことが出来ないため、一般会計繰入金を補っています。今後は適正な使用料収入の確保に向けて料金改定等の見直しを必要とあります。また、使用料収入の増加を図るため、水洗化率のさらなる向上に向け、啓発等を継続していく予定です。

2. 老朽化の状況について

当町の下水道汚水管渠の布設は、一部地域を除いて平成元年から新設工事を行っています。従来は水洗化率の向上に力を入れてきたため、現在のところ管渠改善率は0%となっています。今後新しい下水道事業計画を立てる中で、まずは点検計画を作成し、老朽化対策の必要箇所を洗い出すとともに、優先順位をつけることにより、計画的に投資していく必要とあります。

全体総括

収益的収支比率、経費回収率ともに100%に達しておらず、近い将来厳しい経営状況になることが見込まれます。また、一定時期に集中して布設を行っているため、この先同じように管の更新時期が重なってまいります。さらに施設の老朽化も進み、全体的に費用がかかることから、適正な投資計画の策定とともに、さらなる企業努力や料金改定について検討を進めていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。